

2 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	【上位目標】対象小学校における児童の学習達成度が向上する。 【プロジェクト目標】整備された校舎の利用および図書室の活用を通じて、児童の学習環境が改善される。 達成状況： 対象校3校に校舎、トイレ、手洗い場が建設された。また、2校では図書室が新設され、1校では既存の図書室環境が改善された。老朽化した木造校舎で勉強していた児童全員が新校舎に移動し、教員の指導により各施設を適切に利用している。また、図書室を含む新校舎、トイレ、手洗い場は児童から成る清掃委員会により維持されている。図書室の1日当たりの平均利用者は100人を超えることもあり、教員や児童による積極的な活用が確認されている。また、本事業で設定した6つの指標は、後述の通り、達成若しくは概ね達成されている。以上から、プロジェクト目標は達成されたと判断する。 事業完了後の教員インタビュー調査結果（22名に今後の学校運営や本事業による変化を聞き取りした）から、上位目標の達成見込みを検討した。インタビュー対象者全員が、「児童の勉強意欲が高まった」、「保護者が喜んで子どもを通学させるようになった」と回答し、児童や保護者の正の変化を感じている。また、18名の教員が図書室活動、施設維持活動、児童への衛生啓発を今後も積極的に継続していきたいと回答した。以上から、事業完了時において、①学習環境が適切に維持されていること、②学習意欲が向上していること、③保護者の学校への関心が高まっていることが確認された。後述の通り、事業終了後における持続可能性は高いと判断され、児童の学習達成度の向上に寄与する本事業の成果が今後も継続することが期待されるため、上位目標は達成される見込みであると判断した。
(2) 活動内容	< 1. 学習環境改善活動 > <u>1.1：小学校校舎3棟を建設し、机・いす等の教具を提供する。</u> 3棟全ての小学校校舎建設が完了し、必要な教具が供与された。また、建設期間中は当会エンジニアが定期モニタリングを実施した。 <u>1.2：各小学校にトイレ棟（4室：男児、女児用）を建設する。</u> 校舎建設と同時期に建設し、9月に建設が完了した。 <u>1.3：各小学校に手洗い場を設置する。</u> 7月に建設を開始し、9月に建設が完了した。 <u>1.4：図書室を設置する。</u> 合計1,984冊(1校当たり約660冊)の図書、本棚などの図書室用家具、パソコン、テレビなどの視聴覚教材を設置した。 < 1. 教員の指導能力および学校管理運営能力の改善活動 > <u>2.1：教員を対象に、図書室運営、読書推進研修を行う。</u> 10月、図書室運営、読書推進研修会を各対象校で実施し、教員、学校支援委員会、州・郡教育局関係者など合計54名が参加した。3日間の研修で参加者は、図書の管理方法、配架方法、貸出方法などの図書管理手法、児童への読書推進や授業での図書活用を目的とした読み聞かせの手法、児童用読書スケジュール、図書室活動計画、必要予算作成などの運営手法を学んだ。11月には、州・郡教育局職員と、図書室運営研修1ヶ月後のモニタリング・フォローアップ活動を実施した。

	<u>2.2：施設の維持管理および衛生啓発研修を行う。</u> 12月、教員、学校支援委員会から合計36名が参加し、施設の維持管理研修および衛生啓発研修を実施した。参加者は施設維持管理の必要性の講習を受け、簡単な修繕方法の講習と実践を行った。また、児童への衛生教育の重要性をビデオ教材等で学び、学校の清掃スケジュールを策定した。2023年1月、策定した清掃スケジュールを実践できているか確認する研修後モニタリングを行い、3月初めに学校環境チェックリストによる施設維持状況確認を行った。
(3) 達成された成果	<u>成果1. 教室・トイレの環境が物理的に快適・安全・衛生的になる。</u> 指標1-1 各対象校それぞれにおいて、1教室あたりの児童数が減少し38名以下となる。 【達成度】建設完了後の2023年度における各対象校の1教室あたりの児童数は、オーチャック小学校36名、プレックタベン小学校39名、ワットカンペン小学校32名となった。よって、指標1-1はプレックタベン小学校において概ね達成され、他2校において達成された。 指標1-2 老朽化した校舎で学んでいた児童のすべてが安全な校舎で学ぶことができる。 【達成度】ワットカンペン小学校では、旧校舎は老朽化のため取り壊した。オーチャック小学校とプレックタベン小学校では、旧校舎を残しているが、授業用途では使用していない。結果、旧校舎で学んでいた児童全員が新校舎で授業を受けており、指標1-2は達成された。 指標1-3 各対象校それぞれのトイレあたりの児童数および手洗い場あたりの児童数が減少し、トイレにおいては50名以下1室（注：オーチャック小学校においては25名以下1室）で使用でき、共用から男女別での使用が可能となり、手洗い場においては20名以下1蛇口で使用が可能となり手洗いの頻度が増えることで、児童の衛生状況が改善する。 【達成度】建設完了後の2023年度における児童数を基に確認した結果、全対象校で男女別のトイレ利用が開始され、トイレあたりの児童数はオーチャック小学校18名、プレックタベン小学校57名、ワットカンペン小学校63名となった。3校中2校では指標の達成目標を少し下回る結果となったが、ベースライン時では両校ともに100名以上で1つのトイレを共用していた状況からは大きく改善した。次に、手洗い場あたりの児童数はオーチャック小学校8名、プレックタベン小学校18名、ワットカンペン小学校23名となった。以上の結果から、指標1-3は概ね達成された。 指標1-4 図書室にて読書推進活動に必要な資機材が計画通りに配備され、対象校による図書室の主体的な運営が開始される。 【達成度】図書の適切な分類、配架、開館状況など図書室の環境を全18項目で構成される環境チェックリストで確認した。研修1ヶ月後に確認したところ、ワットカンペン小学校では16項目が達成され、他2校では18項目全てが達成された。全対象校は、学校開校日の週6日図書室を開放しており、新規図書室を開室した2校の事業期間内（約1ヶ月半）の図書室利用者は延べ8,503名であった。対象校が主体的に図書室環境を整え、計画通りに図書室運営を開始したことが確認されたため、指標1-4は達成された。 <u>期待される成果2. 教員の学校運営および指導能力が強化される。</u>

	指標 2-1 図書室運営および読書推進研修受講者の 8 割が図書室や図書を活用するための知識と技能を身に着ける。 【達成度】54 名の研修参加者に対して、研修内で 5 段階評価（『全く分からない、一部分かる、概ね分かる、良く分かる、全て分かる』）を用いた事前事後テストを実施した。研修後に「良く分かる」以上の自己評価をした参加者は 61%になった。本研修には州・郡教育局からの依頼で図書室を持たない他の学校教員 5 名の参加があった。また、学校運営委員会と他の学校教員にとって図書室運営は初めて耳にする内容であったことから、彼らの理解度は本事業の図書室運営の主体となる対象校教員と比較すると下がり、研修後の理解度は指標が達成されなかった。研修内容の次に、研修 1 ヶ月後を目途に、54 名の参加者の内対象校の教員である 31 名全員へ合計 15 項目の質問を行い、実践状況をヒアリング調査した。結果、項目の 8 割以上を実践している教員が 31 名中 29 名だった。図書室運営の主体となる対象校の教員が研修後に内容を実施できていた状況があること、モニタリング時に学校運営委員会が教員の図書室運営をサポートしている状況が確認できたことから、指標 2-1 は概ね達成されたと判断する。 指標 2-2 学校環境チェックリストに基づき、施設の適切な維持・管理・利用を確認した結果、対象校すべてがチェックリストの全項目中 8 割以上の項目を達成し、環境が清潔に維持され・手洗い場が適切に活用されていることが確認される 【達成度】研修 2 ヶ月後に校舎、トイレ、手洗い場の施設状態、施設の清掃状況、各施設を適切に利用しているかを、合計 18 項目から成る学校環境チェックリストに基づき確認した。結果、オーチャック小学校では 17 項目が達成、他 2 校では全 18 項目が達成され、指標 2-2 は達成された。 <u>「持続可能な開発目標(SDGs)に該当する目標における成果</u> 【目標】ターゲット 4.1 「2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。」 ターゲット 4. a 「子ども、障がい、およびジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。」 【達成度】長期間の学校閉鎖による学習損失を円滑に取り戻すために使用される新校舎が、本事業により建設された。新校舎は対象校に通う全児童に開放され、学習環境改善のための図書室活用、校舎環境維持の取り組みが実施された。本事業は対象校の効果的な学習成果をもたらす場の提供、学習環境の提供に貢献した。
(4) 持続発展性	図書室含む校舎、トイレ、手洗い場は対象校および教育行政機関に正式に譲渡され、対象校及び所管の州・郡教育局の責任のもとで、正規校舎として維持管理されている。学校運営予算は教育省予算から充当され、各学校は本事業で推進した施設維持管理方法を基に、学校環境改善を継続していくことの重要性を理解している。また、竣工 1 年後に当会エンジニアによる建設完了後検査を実施し、事業終了後の施設管理をフォローアップする事で、持続発展性のさらなる担保に努める。 また、同国における学校運営に関する政策指針により、学校運営は地域コミュニティとの協働で行われることが謳われていることから、本事業においても学校が地域住民からの資金調達を行うことを推進してきた結果、不定期であるものの、住民から寄付を募る取り

	組みが開始されている。また、郡教育局から対象校へ図書の寄贈がなされるなど、各対象校と教育行政機関の連携が促進されたことを確認している。これらから、各学校が教育行政機関、地域コミュニティとの連携・協働の下、学校環境改善室活動が継続されることが期待される。
--	--